

## 令和6年度 特別の教育課程の編成の方針について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立波野小学校（外10校）	鹿嶋市教育委員会	公立

### 1. 特別の教育課程の編成の方針に係る公表に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針に係る公表ウェブサイト名・URL 等
鹿嶋市立波野小学校	<a href="http://www.sopia.or.jp/namino/wp/?page_id=8899">http://www.sopia.or.jp/namino/wp/?page_id=8899</a>

### 2. 特別の教育課程を開始又は変更した年度（特例の適用開始日）

2007年4月

2018年4月 変更

\* 取組の期間

2030年4月まで

### 3. 特別の教育課程の概要、特別の教育課程を編成する際の各教科等の授業時数

急速なグローバル化の進展の中で、英語力の一層の充実は我が国にとって、極めて重要な問題であり、国民一人一人にとって、異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になる。その際、国際共通語である英語力の向上は日本の社会にとって不可欠である。これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

### 4. 地域や学校の特色とその特色を活かして特別の教育課程を編成して教育を行う理由

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2021年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力の世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

### 5. 実施の効果、課題および方向性

#### (1) 特別の教育課程の編成・実施の効果と手立て

本校においては、外国語に慣れ親しみ、外国の文化や慣習にも興味を持つ児童が多く見られる。第1学年では、「英語を話せるようになりたいか」の問いに98%が「なりたい」「どちらかというとなりたい」と答え、言語活動への意欲が見られる。また、第2学年では92.3%の児童が同じ問いに「なりたい」「どちらかというとなりたい」と答えている。低学年から英語の歌やリズムを十分に楽しむことで自然に英語の音や発音が身に付き、英語を話すことにも抵抗なく積極的に取り組んでいる。また、多様な文化や慣習を学ぶことで英語を話せることが、将来役に立つことだという認識を持つ児童が増えている。一方、1年生・2年生ともに、数パーセントの児童が外国語の学習に対して消極的な回答をして

いるため、苦手意識を持たせないような授業の工夫や改善が必要である。

(2) 課題の改善のための取組の方向性

- ・「コミュニケーションを行う目的・場面・状況」の設定を明確にし、相手意識をもたせた言語活動を行う必要がある。
- ・児童が興味を持ち身近に感じられるようなトピックを用いたり、ロールプレイを設定したりすることで、児童が楽しみながら必要な表現を活用できるようにする。
- ・段階的に音声から文字へ繋げる指導を行い、児童へ苦手意識を持たせないように丁寧に指導していく。